

せんいち町内会報

令和 2 年 8 月 1 日
ふりかえりの塔慰霊祭特別号
千田町一丁目町内会 (090-8358-6076)

令和 2 年ふりかえりの塔慰霊祭にあたって



あと 5 日もすると、アメリカによる原爆投下の惨禍から、75 年の節目の 8 月 6 日がやってきます。今年の夏はコロナ感染症が収まらず、「語り部」会を取りやめとしました。町内会では原爆の記憶を何らかの形で伝承すべく検討し、この度は会報で私たち町内周りの原爆にまつわるお話を載せることにしました。

皆さんの多くが知っていることですが、改めてご覧ください。

「千田町一丁目町内会」のホームページからも引用あり、こちらも一度見てください。

ふりかえりの塔建設記録(要旨)

繁華街のロータリーの植え込みに建つ「ふりかえりの塔」。これには“逃げて。早く逃げてと叫ぶいとしい人の声もとだえ、後ろがみをひかれふりかえってはころび、火の粉を浴びながらふりかえる、あの日あの時……”とあって涙なしには読めませんでした。これは生き残った私たちのだれもが抱える、重い心の傷なのです。それにしても、どの碑文もあまりに控え目なのです。

“平和のいしずえに”とか“国に殉じ”とか。何も語らない石碑ですが、やはり痛烈に告白していると思うのです。

残虐な皆殺し兵器を絶滅しなければならない、と。 (1982.8.1 付の読売新聞掲載の江口裕子記者の記事)

この記事を用いし、「ふりかえりの塔が大変有意義な塔である事を認めて下さった人がありました」と、後のふりかえりの塔の建設記録に残されています。

◆ 建設実現に至るまで

昭和 52 年、戦前から千田町一丁目に住んできた鈴木茂さんが中心になって、町内会で町民被爆死者の慰霊碑建設が計画されましたが、ロータリーの土地の使用に関して、当初は役所からの許可がなかなか下りませんでした。広島市としては、市の中心地域で慰霊碑として宗教行事を認めない事と、一度慰霊碑建設を認めると、全市で許可申請を認めなければなくなるためとのことでした。



そのためこの塔は、「慰霊碑ではなく、美術工芸観音像の建設」という名目

で申請し、昭和 52 年 5 月に許可が公布されました。ここには花立てと線香立ては設置していないのです。

市役所の関係の課長さんも、犠牲者の霊をお慰めしたいと思う私たちの心中を理解下さり、誠に有難ききな配慮を下され、我々一同より厚く感謝いたしております。その後、町内会で建設委員会を作り、井口の業者に慰霊碑の建設を依頼し 7 月初めに無事完成し、多数の町民の出席のもとに完成式と第一回慰霊祭を実施し、今日まで毎年多数の参加により盛大に式典を行っています。

◆ 観音像入手の経緯

この観音像は元は中国から渡来した貴重な像で、胡ホールの社長青山佑二さんが自宅で大切にお祭りになっていたものを、友人の鈴木茂さんが、千田町一丁目の慰霊碑の守り本尊としてお祭りし、原爆犠牲者の霊を少しでもお慰めいたしたいのでお譲り下さいませんかとお願ひし、譲っていただいたものです。青山さんは、千田町一丁目町民の為になる事ならと快く無料寄贈くださった上に、多額の募金協力もしてくださり、委員一同大変感銘し心より感謝いたしました。

町内の皆さん、いつまでもこの慰霊碑を大切にお守り下さいますようお願い致します。

昭和 59 年 7 月 今井 薫雄

原爆被災説明板

市内には『原爆被災説明板』が 45 か所設置してあり、私たちの千田町 1 丁目界限にも広島赤十字病院 (No.06) の外いくつか設置されています。身近にある説明板から平和の大切さを学んでみませんか。

◆ 広島赤十字病院 (No.06 爆心地から 1.5 km)

中区千田町 1 丁目 9-6

鉄筋コンクリート 3 階建 (地下室)

原子爆弾の強烈な爆風により外郭を残し全滅した。地下室に保管していた、レントゲンフィルム全て感光したことにより、原子爆弾であることが証明された。

現在正面玄関から入ったロビーには、圓鋳勝三氏 (広島県出身・彫刻家・文化功労者・名誉県民) の作品『調べ』が展示されてあります。

氏の初期の頃の作品で、寄贈した同院内で原爆の被害にあい、作品はガラスの破片が深く刺さったままになっており、破壊のすごさが伝わってきます。

氏の作品は平和記念公園にも何点かあります。動員学徒の碑の陶板もその一つです。また、広島県立図書館 (千田町) の入り口の少女像はご子息元規氏の作品です。

日赤に関わった方として

佐々木偵子さん～原爆の子の像モデルとなった人
楮山ヒロ子さん～原爆ドームの保存へのきっかけの人

◆ 日本赤十字社メモリアルパーク

中区千田町 2 丁目



マルセル・ジュノー博士のモニュメント



動員学徒の碑



飛散したガラスが突き刺さった壁

◆ 広島貯金支局 (No.23 爆心地から 1.6 km)

中区千田町 1 丁目 15 番地区

鉄筋コンクリート

原子爆弾の強烈な爆風と、猛火に包まれたが 30 数名の職員の消火活動で全損失は免れた。この建物の内で被災された多くの方々、その中の河内光子さんは、勤労奉仕のこの建物の 2 階で被災、その姿が御幸橋のたもとにある写真のセーラー服の少女です。

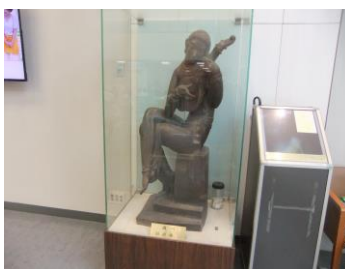
K・K さんは、地下室に逃げて来た母親が産気づき、その日に生まれた子です。後に、詩人栗原貞子の詩集『ヒロシマというとき』で詠われた、うましめんなかな……の方です。



日赤病院旧正門



感光したレントゲンフィルム



調べ



県立図書館



爆風で破壊された窓枠



外郭だけを残す日赤病院

